

## 地域生活支援拠点等整備事業プロジェクト報告書

開催日時 4月19日(金) 10時～12時

大和高田市総合福祉会館 二階 はればれ事業所

内容

- ・昨年度のプロジェクトの経過報告・確認
- ・西宮市への視察の日程確認
- ・地域課題の整理

### ①緊急時対応の課題

何らかの障害のサービスにつながっている人は登録制にすれば、対応は可能である。しかし、障害のサービスにつながっていない人もいるはずであり、その人達も緊急時は対応が必要である。

緊急時の対応の時に、本人の意向の確認が一番大切である。

→具体的な支援の例を挙げて、それにどう対応していくのかを検討しながら、緊急時に必要な方法や資源を考えて行く。次回には緊急時の対応の事例を持ってきてもらう。

### ②相談機能の課題

相談支援の内容も多岐に渡ってきており、他職種連携等が重要になってきている。

委託事業所と特定相談事業所の違いがはっきりしなくなっている。

総合的に相談できる機能が必要ではないか？

R元年6月4日(火) 西宮市 地域共生館ふれぼの 視察 10時～12時

参加者 17名

自立支援協議会の設立の経過・現在の状況の説明を受け、地域共生館ふれぼのの見学をさせて頂く。自立支援協議会事態はもともと自主的に集まったいたネットワークから成り立ったものであり、「本人中心」が協議会でも徹底されていた。本人中心部会が全てにおいて中心であった。

地域共生館ふれぼのでは、だれもが気軽の利用ができる場所として位置付けており、子供から大人、障害のあるなしに関わらずこの場を訪れ関係を作っていることが素晴らしと感じた。

又、地域共生館ふれぼのでは体験の場を設置しており、一人暮らしの体験や訓練ができる場を設置していた。

相談機能では、本人不在計画相談とそれに基づく不要なサービス支給に繋がる恐れがあったり、利益につながる計画相談支援のみ熱心に行い、基本相談支援が衰退する恐れが課題として上がってきていた。それにともない、基幹相談支援センターを設立して、相談支援の機能の強化を行う。